

○江戸時代に建設された用水路（十石堀）は、地域住民主体で維持管理が行われてきた。維持管理を行う中で地域資源と捉える意識が醸成し、地域学習やエコツーリズム等を経て、令和元年9月、世界かんがい施設遺産に登録。



キーワード

内発的

ボランティア

都市農村交流

教育

エコツーリズム

世界かんがい遺産

基本情報

- 所在地：茨城県北茨城市中郷町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：十石堀維持管理協議会
- 選定表彰：第7回「ディスカバー農山漁村の宝」選定
- 主力商品・イベント：エコツーリズム
- 活用している地域資源：かんがい施設（十石堀）、自然、地質遺産
- 主な国等の支援策：多面的機能支払交付金

<構成員（参考）>

- ・松井地区：109人
- ・日棚地区：136人
- ・栗野地区：102人

取組の概要

- 十石堀周辺に残る豊かな自然、炭鉱跡などの地域資源を活用し、ボランティアによる十石堀の歴史や地質遺産等のエコツーリズムを実施。また、教育機関との連携により、小学校の校外学習の実施や副読本の作成。
- 伝統継承を目的とし、平成29年度より古文書の解読、地域勉強会、他県先進事例視察などを実施。十石堀は平成31年1月に市の史跡指定、令和元年9月には世界かんがい施設遺産に登録。
- 世界かんがい施設遺産登録を機に地域内外で関心が高まり、来訪者数が増加。行政と連携した市民講座や県民大学講座（現地研修）のほか、海外からの視察受入れ。



小学生の校外学習



親子参加のウォーキング



県民大学講座



海外からの視察

体制図

組織図：



取組の成果

- 小学校の地域学習：23人（H27）→143人（R元）
- エコツーリズム参加人数：40人（H27）→77人（R元）
（ボランティアによる十石堀ウォーキング、地質遺産ツアー等）
- 講座参加者数・国内外からの視察受入れ数：54人（R元）

所在地▶茨城県北茨城市磯原町1630

連絡先▶TEL:0293-43-1111 FAX:0293-43-1108

E-mail:nousei@city.kitaibaraki.lg.jp

ウェブサイト▶<http://www.city.kitaibaraki.lg.jp/docs/2019082700010/>

※上記は北茨城市役所

- 平成11年に会社を設立。いちごの観光資源化を目指しいちご狩り開始。未収穫分は加工販売のほかレストランやカフェも併設し6次化を推進。更には就労継続支援事業により農福連携の取組。



キーワード

内発的

JGAP指導員

6次産業化

農福

都市農村交流

基本情報

- 所在地：栃木県小山市大川島
- 地域指定：平地地域
- 団体名：株式会社いちごの里ファーム
- 選定表彰：
 - 第6回関東農政局「ディスカバー農山漁村の宝」選定
 - 第39回プロが選ぶ観光食事土産物施設100選（R1）
- 主力商品・イベント：いちご、果実類及び同加工品、観光農園、カフェレストラン
- 活用している地域資源：農林水産物

取組の概要

- 県の代表的な作物「いちご」を始めとするフルーツ狩りのほか、収穫しきれなかったいちご等を活用し、ジャムやケーキの製造販売を開始。現在はそれらのほか地元野菜を使った料理を提供するカフェ、レストランを開設。多くの来客数を実現し、売上も向上。また、多くの雇用も創出。
- 平成30年には（一社）いちごの里めぶきファーム（就労継続支援事業所）を開設。令和2年に社会福祉法人「めぶき会」として継承。多くの障害者を雇用し、農福連携農園として地域社会に貢献。
- 平成30年にJGAP認証を取得。食の安全、環境保全、人権と福祉の配慮への取組。



いちご狩りの様子



自社いちごを使用



160棟のいちごハウス



農福連携で働く方々

体制図

株式会社いちごの里ファーム

観光農園

地域社会への
貢献就労継続支援施設
（社会福祉法人）
めぶき会レストラン、カフェ
等（県内4店舗）

取組の成果

- 売上：4.2億円（H20）→ 8.4億円（R元）
- 来場者数：10万人（H20）→ 16万人（R元）
- 雇用者数：140人（R元）
- 障害者雇用人数：40人（R元）
- 観光農園面積：3ha（H20）→ 5ha（R元）

障害者の方々が製造した
「ひだまりゼリー」

所在地▶栃木県小山市大川島

連絡先▶TEL:0285-33-1070 FAX:0285-33-1071

E-mail:yoyaku@itigo.co.jp

ウェブサイト▶https://www.itigo.co.jp/

【取組のプロセス】

日本一の生産量を誇る栃木のいちごを観光資源として活用を思いつく

1998年～

きっかけ

○ 栃木県の代表的な作物「いちご」を観光資源としての活用を思い立ち、観光農園を開始

収穫仕切れなかったいちごの活用と来客者の要望に応えた商品の提供

1999年～

観光農園を開始

- 平成12年より、観光としてのいちご狩りを開始。同時に余ったいちごを加工し、ジャムやケーキ等の製造販売を開始するとともにレストランやカフェも併設。令和元年には県外に新レストランをオープン
- 平成26年の観光農園利用者は12万5千人、売上約5億7千万円、雇用者110人



直売所「ベリーベリーマルシェ」

地域社会により密接に貢献したいという思いから、めぶきファーム設立

2018年～

農福連携の取組

- 平成30年、「一般社団法人 いちごの里めぶきファーム」を開設。一般就労型A型事業として農福連携を開始。現在は約40名の障害者を雇用。令和2年に社会福祉法人化
- 観光農園で働くほか、自社で栽培したいちごやももの加工品を製造、販売



社会福祉法人めぶき会

地域やお客様に愛されつつ、栃木県の魅力度を向上させたい思いで取組を促進していく

2020年～

安心安全ないちごの提供と地域への貢献

- 令和元年の観光農園利用者は16万人、売上は約8億4千万円まで上昇、雇用者は180人（内障害者40人）に増加
- 平成30年にJGAP認証取得。継続的な取組とするため農場担当者4名がJGAP指導員資格を取得



JGAP認証取得

今後の展望

国内最大級の農福連携農園へ

- いちごの里ファームは国内最大級の観光農園であるが、今後はいちごハウス増設による、国内最大級の農福連携農園を目指す
- 世界的ワイン産地、アメリカ合衆国ナパバレーを参考に6次産業化を促進させ、世界中からの来客により、地域、栃木の魅力を発信する



いちごの里カフェ日光店オープン

- 平成6年、北軽井沢にキャンプ場をオープン、平成12年に有限会社設立。キャンプ場における地場産木質エネルギーの循環活用を開始。通年の集客数確保と薪の自社生産により雇用の場を創出。



キーワード

内発的

地域住民

木質エネルギー

ソーシャルビジネス

6次産業化

基本情報

- 所在地：群馬県吾妻郡長野原町
- 地域指定：山間地域
- 団体名：有限会社きたもっく
- 選定表彰：
 - 第7回関東農政局「ディスカバー農山漁村の宝」選定
 - R2年 群馬県6次産業化チャレンジ支援事業1位
 - H30年「家族で冬キャンプ」東日本ランキング1位
 - H26年「お勧めのキャンプ場」東日本ランキング1位
- 主力商品・イベント：自社製薪、冬キャンプ、蜂蜜
- 活用している地域資源：山林、農林水産物
- 主な国等の支援策：地域資源活用事業

取組の概要

- 冬期間は休業せざるを得なかったキャンプ場の冬の集客案として、場内の全宿泊施設に薪ストーブを設置。「寒いからこそ楽しめるアウトドア」の提案により、宿泊者の呼び込みや従業員（通年雇用）を創出。
- 地域の豊富な森林資源を活用すべく、採暖や食事づくりで活用する「薪」の生産を自社内で開始。また、アーボリカルチャーを取り入れた計画栽培など地域内木質エネルギーの循環活用への取組。
- 耕作放棄地を再生し養蜂業を開始。地元農家との協業による蜂蜜加工品の企画販売など、ブランド地域農産物の発信。



冬場のアウトドア

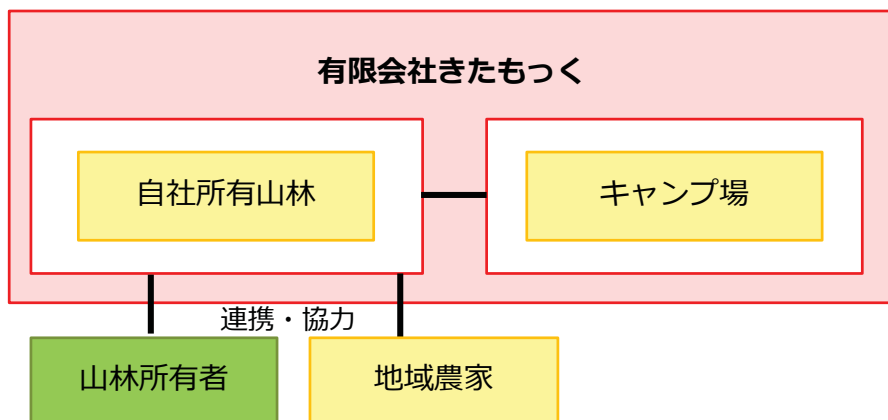


薪はすべて自社生産



養蜂とブランド蜂蜜

体制図



取組の成果

- 年間キャンプ場宿泊者数：約7万人（H27）→約8万3千人（R元）
- 従業員数：46人（H12）→113人（R元）
- 年間薪消費量：約863m³
- 企業売上：約4.8億円（R元）
- 年間蜂蜜生産量：1.2トン

所在地▶群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢

連絡先▶TEL:0279-84-6633 FAX:0279-84-3533

E-mail:contacts_kitamoc@kitamoc.com

ウェブサイト▶<https://kitamoc.com/>

- 平成23年、沼田市の特産品を活用した商品「えだまメンチ」を開発。イベント販売や学校給食への提供により地域活性化に貢献。市内の福祉施設に鞆むきを依頼し、農福連携の取組も開始。



キーワード

外部との連携

学生

6次産業化

教育

農福

えだまメンチ

基本情報

- 所在地：群馬県沼田市栄町
- 地域指定：都市的地域
- 団体名：群馬県立利根実業高等学校 食品文化部
- 選定表彰：
群馬ふるさとづくり賞（H26年度）
FANアワード2014（H26年度）
ふるさとづくり大賞総務大臣賞（H27年度）ほか
- 主力商品・イベント：えだまメンチ、各種イベントで出店・販売
- 活用している地域資源：農林水産物

取組の概要

- 沼田市から商品開発の依頼を受け、規格外等の理由で出荷できないえだまめに着目。これを活用した「えだまメンチ」を開発。
- 市内外のイベントで販売し、地域特産品のえだまめを大きくPR。平成24年度からは市内の全小中学校の学校給食に「えだまメンチ」を提供。高校生が小、中学校に出向き、食農教育も実施。
- 平成27年度からは市内の福祉施設に鞆むきを依頼。農福連携による雇用の創出。



えだまメンチ

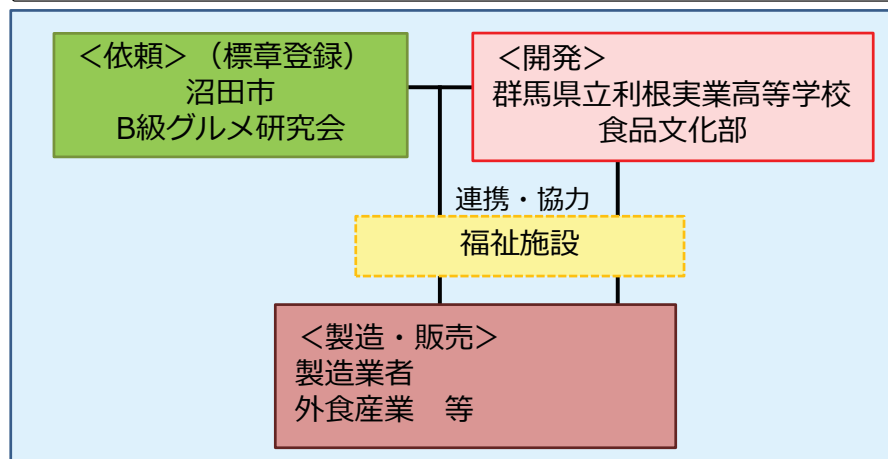


市内全小中学校の給食に提供



えだまメンチ教室

体制図



取組の成果

- H30年度販売額：約1,500万円
- 累計販売額（R2年度見込み）：約1.2億円



イベントでの販売

所在地▶群馬県沼田市栄町

連絡先▶TEL:0278-23-1131 FAX:0278-22-5136

E-mail:tonejitu1902@edu-g.gsn.ed.jp

ウェブサイト▶<http://edama-menchi.com/>

- 平成18年、秩父地域に自生するカエデに着目し、国産メープルシロップ事業を開始。樹液の採取、シロップ化（秩父カエデ糖）のほか、加工品の開発など、6次産業化と林商工連携によるお菓子創りを推進。



キーワード

外部との連携

学生

6次産業化

ソーシャルビジネス

輸出

カエデ

基本情報

- 所在地：埼玉県秩父市
- 地域指定：都市的地域
- 団体名：お菓子な郷推進協議会
- 選定表彰：
 - 第2回関東農政局「ディスカバー農山漁村の宝」選定
 - 世界食品オリンピックモンドセレクション
 - 第6回WOODデザイン賞受賞（R2年） など
- 主力商品・イベント：秩父カエデ糖、海外でのプロモーション など
- 活用している地域資源：農林水産物（メープルシロップ）
- 主な国等の支援策：秩父メープルシロップ生産体制整備支援事業（埼玉県）ほか

取組の概要

- 秩父の山々に自生しているカエデを活用し、シロップ化のほか、カエデ酵母菌使用パンの開発、カエデのラムネ販売など6次産業化と林商工連携による菓子づくりを開始。同時に荒廃が進む山林へのカエデ植樹を開始、地域と連携した山林の再生活動。
- H23年より、流通大手や通信販売業と連携した事業展開を開始。売上は大幅に増加し、雇用者数も増加。
- H29年より、商社と連携して米国でのプロモーション及び日系スーパーで秩父カエデ糖使用菓子類の販売を開始。R2年には秩父カエデ糖が食品として世界初の森林認証を取得するなど、秩父の地域資源を世界に向け発信。



樹液の採取



地元中学生との植樹事業

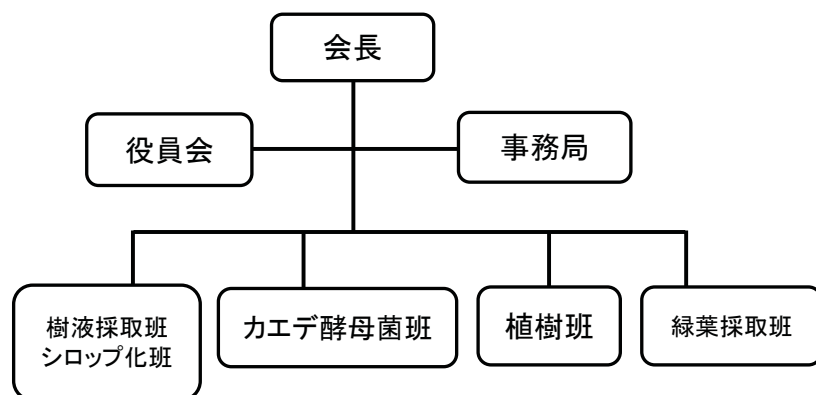


秩父カエデ糖使用商品



米国のスーパーで販売

体制図



取組の成果

- カエデ糖使用商品売上：
 - (H22) 1,300万円→(H24) 3,200万円→(R元) 3,900万円
- 植栽本数：累計1万本（R元時点）
- 雇用者数：(H22) 20人→(H24) 50人→(R元) 60人

所在地▶埼玉県秩父市宮側町1-7

連絡先▶TEL:0494-25-0088 FAX:0494-22-3384

E-mail:okashinakuni@gmail.com

ウェブサイト▶<http://www.okashinakuni.jp/>

- 平成26年、地域活性団体「ようこそ鋸南プロジェクト」を設立し、廃校利用の道の駅を拠点として交流活動を開始。平成29年、株式会社を設立し、農泊推進協議会を設立。クラフトビール醸造所を整備。



キーワード

外部との連携

学生

移住者

農泊

都市農村交流

ビール

基本情報

- 所在地：千葉県安房郡鋸南町吉浜
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：きよなん株式会社
- 選定表彰：
関東農政局第4回
「ディスカバー農山漁村の宝」
ジャパン・グレートビア・アワーズ2019
- 主力商品・イベント：クラフトビール、農泊
- 活用している地域資源：農林水産物、廃校
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金
(農泊推進対策)、都市農村共生・対流総合対策交付金

取組の概要

- 地域住民や移住者、首都圏大学生と連携して地域活性団体を設立。町が廃校を改修した「道の駅 保田小学校」を拠点として子ども農山村交流など多様な交流機会を創出。
- 株式会社後、地域の農業・加工・観光団体と連携して「鋸南町農泊推進協議会」を設立。交流や移住・定住促進のほか雇用を創出。インバウンドも増加。
- 地元素材を副原料としたクラフトビールを開発。直販のほか、宿泊施設、飲食店などで販売。



道の駅 保田小学校



インバウンドの甲冑体験

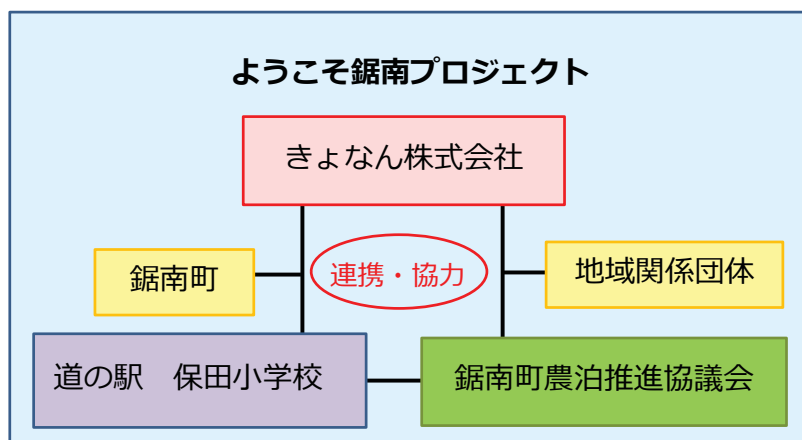


クラフトビール



イベントでPR

体制図



取組の成果

- 年間交流人口：857人（H26）→3,188人（H30）
- 協議会等売上（体験等）：約77万円（H27）→約190万円（H30）
- ビール販売金額：約1,600万円（R元年）
- 移住者のべ就労数：常勤2名、非常勤6名



ビール副原料の甘夏と米

所在地▶千葉県安房郡鋸南町吉浜517-1鋸南町観光物産センター内

連絡先▶TEL:0470-29-5454 FAX:0470-29-5455

E-mail:info@kyonanbeer.com

ウェブサイト▶https://kyonanbeer.com/

○ 多様な森林活用を組み込んだ新しい森林経営を実践。 【森林サービス産業】



キーワード

内発的

企業

森林体験

基本情報

- 所在地：神奈川県小田原市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：(株)T-FORESTRY（山林150haを所有し経営を行う辻村家が設立）
- 選定表彰：－
- 主力商品・イベント：フォレストアドベンチャー
フォレストバイク
- 活用している地域資源：森林



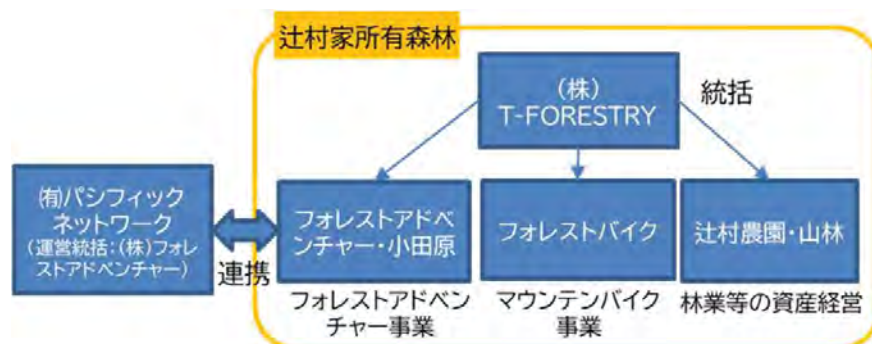
樹齢100年の杉

取組の概要

- 神奈川県小田原市の「辻村農園・山林」では、(株)T-Forestryを設立し、「森は悠久の産物、里山は地元の恵みの源泉」「今ある良い森を壊さない」との観点に基づき、多様な森林活用を組み込んだ新たな森林所有者の経営モデルを提示。
- 江戸時代からの森林経営の歩みを継承し、その地域の歴史を体感できる遺構の保存やウォーキングトレイル整備を実施。
- 近年は、所有森林内で樹上での冒険を楽しむ「フォレストアドベンチャー」や、マウンテンバイクによる「フォレストバイク」を導入。



体制図



取組の成果

- 株式会社T-FORESTRY：役員/社員10名、臨時雇用20名
- フォレストアドベンチャー・小田原来場者数：約25,000人／年
- フォレストバイク来場者数：約2,000人／年



所在地▶神奈川県小田原市荻窪4385

連絡先▶TEL:0465-22-2934

FAX：

E-mail:odawara@t-forestry.co.jp

ウェブサイト▶<https://fa-odawara.foret-aventure.jp/>

○ 女子サッカー選手など多様な人材による棚田保全、アートによる地域活性化、新たなライフスタイルの提案



キーワード

外部との連携

アスリート

農村

観光

スポーツ

芸術・文化

半農半×

基本情報

- 所在地：新潟県十日町市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：特定非営利活動法人 越後妻有里山協働機構
- 選定表彰：
 - 第10回エコツーリズム大賞特別賞受賞(H27)
 - 第15回NIKS地域活性化大賞受賞(H30)
- 主力商品・イベント：大地の芸術祭、棚田オーナー制度「まつだい棚田バンク」
- 女子サッカーチーム「FC越後妻有」
- 活用している地域資源：棚田・農村集落
- 主な国等の支援策：中山間地域等直接支払交付金、農の雇用事業

取組の概要

- 「大地の芸術祭」のプロジェクトの1つとして、2003年「まつだい棚田バンク」を発足し、その後本格組織化。松代地域では、過疎高齢化による棚田放棄が深刻化していたため、芸術祭を通じて都市住民や企業など多様な人が棚田を保全する活動を開始。
- 2015年からは、耕作放棄地増加を見据え、新たな担い手として女子サッカー選手が農業をしながらプロリーグを目指すサッカーチーム「FC越後妻有」を発足。
- 2020年からは、鹿島建設株式会社と十日町市や新潟県などが中心となり複数メーカーと連携して行うスマート農業実証プロジェクトに参加。



芸術祭のアートがある風景



FC選手が田植えイベントに参加

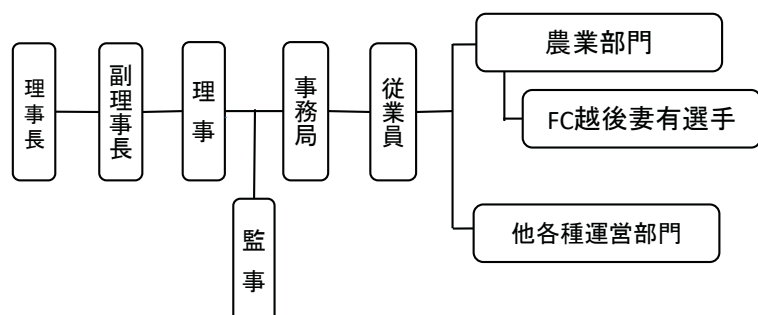


FC選手の日頃の練習風景



ドローンを活用したスマート農業

体制図



取組の成果

- 「大地の芸術祭」は、本祭としてH12年から3年ごとにトリエンナーレを開催、期間中の来場者数約55万人(H30)。通年で企画展やイベントを開催し、関係人口を拡大。
- 「まつだい棚田バンク」は、棚田オーナー制度の中で保全面積、会員数共に日本一(H28年)。R2年度現在、保全面積は7.6ha、会員数は350口。
- 「FC越後妻有」は、地方における農業の若者の担い手不足と、都市部でのスポーツ職雇用の厳しさに対し、解決策となる新しいライフスタイルを提案。
- スマート農業実証プロジェクトは、若い担い手間での農業イメージを改善、作業時間を軽減。

所在地 ▶ 十日町市松代3743-1

連絡先 ▶ TEL : 025-595-6180 FAX : 025-595-6181

E-mail: info@tsumari-artfield.com

ウェブサイト ▶ http://www.echigo-tsumari.jp/activity/tanada_owner

○ 若手異業種の経営者と農家がそれぞれの経営資源を連携、お互いの課題解決を図ることによる地域振興。



キーワード

外部との連携

若者

食品

6次産業化

企業連携

基本情報

- 所在地：新潟県阿賀野市
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：あがの衆
- 選定表彰：「ディスカバー農山漁村の宝」第7回全国選定
- 主力商品・イベント：「あがの姫牛」、野菜ブランド「はたけの座」、「飲食店への生産者見学ツアー」、「あがの風土キャラバン」
- 活用している地域資源：農林水産物

取組の概要

- 異業種の若手経営者4名が連携し、H28年に「あがの衆」を設立。ブランド牛の開発に着手。
- 廃棄ビール粕を発酵技術で牛の飼料に加工し、当該飼料を牛に与えることで餌代を削減。こうして生産した「あがの姫牛」のPRのため、生産者見学ツアーなどを企画・広報。
- 10軒の若手農家と連携し、野菜ブランド「はたけの座」を立ち上げ。



食の匠集団「あがの衆」集合！



「はたけの座」誕生

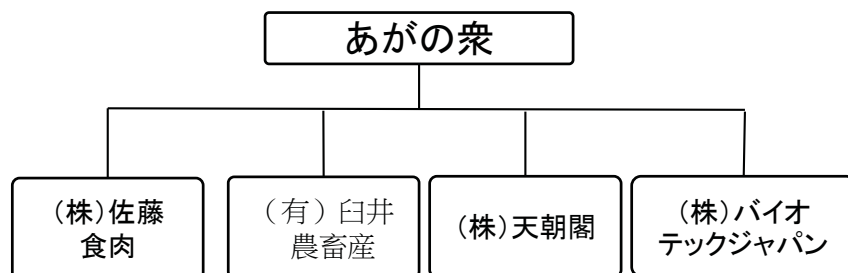


飲食店への生産者見学ツアー



あがの風土キャラバン

体制図



取組の成果

- 「あがの姫牛」の売上は、0.5億円から約1.5億円に増加（H28～H30）。
- 市内の農家や食に関わる20名で発足した「あがの風土キャラバン」と連携し、「あがの姫牛」を使用したBBQイベント、消費者とのふれあいが定着。

所在地▶新潟県阿賀野市山倉1912-1

連絡先▶TEL:0250-63-8086 E-mail:hirokuni.satou@sato-shokuniku.com

ウェブサイト▶<http://aganohimeushi.com/>

- 「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」（平成19年発足）を推進し、再びトキと共生する自然環境を田んぼを中心に作るとともに、佐渡米のブランド化を推進。



キーワード

内発的

トキ

生物多様性

基本情報

- 所在地：新潟県佐渡市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会
- 選定表彰：「ディスカバー農山漁村の宝」北陸農政局選定（H30年）
- 主力商品・イベント：「朱鷺と暮らす郷」認証米・田んぼアート
- 活用している地域資源：トキ
- 主な国等の支援策：
 - 食と地域の交流促進対策交付金（平成23～24年度）
 - 生物多様性保全推進交付金（平成25～27年度）

取組の概要

- 農家自らが「生きものを育む農法」を推進し、安心・安全な米づくりに取組む。
- 首都圏での情報発信活動や消費者との交流により、販路を拡大。
- 田んぼ自体の愛着醸成と賑わうほ場に向け、田んぼアートを実施。



着実に進むトキの野生定着

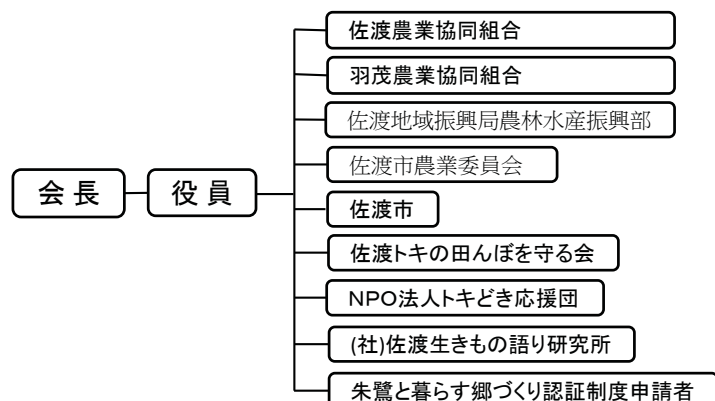


生きものの調査



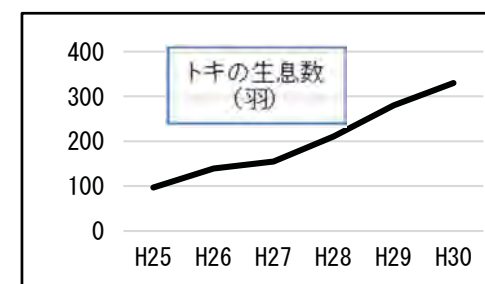
田んぼアート

体制図



取組の成果

- 生物多様性豊かな田んぼが拡大し、トキの野生復帰が進んだ。（トキの生息数約97羽（H25）→約330羽（H30））
- 佐渡市認証米「朱鷺と暮らす郷」の取扱店数。350店（H30）



所在地▶新潟県佐渡市千種232番地

連絡先▶TEL:0259-63-5117（佐渡市農業政策課内）

E-mail:u-satoyama@city.sado.niigata.jp

ウェブサイト▶http://www.toki-mai.jp/（朱鷺と暮らす郷公式HP）

- 地域資源を宝と捉え農業体験活動に取り組み、耕作放棄地など資源の有効利用、集落環境の改善、獣害対策、集落再生と地域活性化を目指す。



キーワード

内発的

地域おこし協力隊

都市農村交流

多面的機能支払

基本情報

- 所在地：新潟県新発田市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：上三光農村環境保全・清流の会
- 選定表彰：
 - ディスカバー農山漁村の宝第7回選定（個人部門）
 - 農村の多面的機能支払活動で局長賞(H30)
 - 獣害対策優良事例で農村振興局長賞(H31)
- 主力商品・イベント：農業体験交流
- 活用している地域資源：農地、野生鳥獣、ビオトープ
- 主な国等の支援策：農地・水保全管理支払交付金（現：多面的機能支払交付金）

取組の概要

- 農業体験交流活動やGISによる集落資源の情報共有と有効利用。
- 集落内外の多様な主体の協力の下、集落環境診断に基づく効果的なサル等の獣害対策。
- 都市住民を対象とした体験イベントや研修会、農地等の資源管理とその活用に取り組み、持続可能な集落づくりを実践。



GISを使って農地の管理



集落環境診断

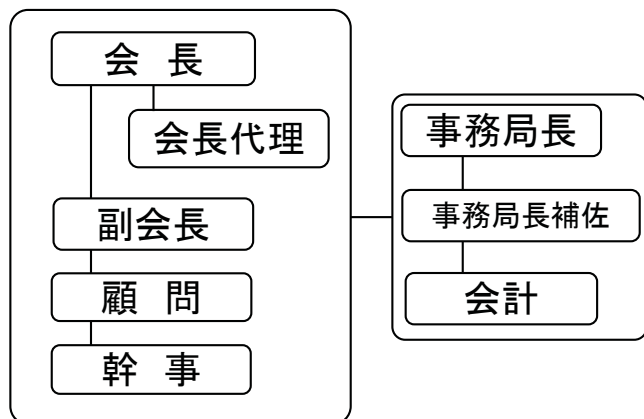


都市農村交流



集落環境が改善

体制図



取組の成果

- サル被害額が減少（約249万円（H27）→ 約164万円（H30））
- 体験交流型の獣害対策研修会を開催し、年間約50人の都市住民を受け入れ。
- 都市部から年間延べ約200人が参加、交流人口の増加で集落が活性化。

所在地▶新潟県新発田市上三光622

連絡先▶TEL:0254-25-2763 E-mail:takemata.p@gmail.com

ウェブサイト▶<https://ja-jp.facebook.com/kamisanko/>

【取組のプロセス】

鳥獣被害防止総合対策の活用

管理の行き届かない里山や耕作放棄地の増加で野生動物被害が拡大・農家減少、少子高齢化で集落の共助意識が低下

2011年～

きっかけ

○サルによる被害防止対策のため、集落に約20kmの電気柵を設置

集落の結束力の高まり・電気柵の管理の必要性

2012年

上三光農村環境保全・清流の会を設立

○「持続可能な農村づくり」を目指し、地域資源の保全・活用、獣害対策の取組を開始

農地・水保管理支払交付金（現：多面的機能支払交付金）の活用

2012年～

農業体験交流の実施

○都市住民を受け入れ、田植え、稲刈り、青空レストラン、生き物調査等を実施を契機に、耕作放棄水田をビオトープに再生

・地域資源が使われていない
・農村を知る機会や交流が少ない

2013年～

GISによる集落の見える化

○農地の所有者、耕作者、用水路や電気柵の位置、耕作放棄地、集落の歴史、文化等の集落資源の情報をGISで可視化し一元管理。住民間で情報の共有化が図られたことで、資源管理等の合意形成がスムーズになる。

体験交流型の獣害対策研修会の開催

○NPO、市、JA等と共同で、都市住民を対象に電気柵・イノシシ掘り起こし跡の見学、ジビエ試食といった体験交流型の獣害対策研修会を開催

・集落資源の情報と体験の共有による住民の集落への関心の高まり
・サルの出没が減らない

2016年～

集落住民参加による環境診断結果による環境整備・体験交流活動

- NPO等の協力の下、住民総出で集落環境診断を実施し、被害等の要因等の問題を共有
- 従来対策の他に、山林の伐採・整備による緩衝帯の整備(約13ha)、荒廃農地の再生・共同管理(2ha)、電気柵管理隊の結成等を実施し被害額が減少(2015年：約249万円→2018年：約164万円)
- 放置果樹対策としての柿酢づくり体験、農村環境を楽しむ憩いの場づくりに取り組み、サル等が近づきにくい環境創出にも寄与。都市部から年間延べ約200人が体験交流活動に参加

・都市住民とのつながり拡大

2017年～

地域おこし協力隊の導入

○農業体験を契機とした地域への移住者を地域おこし協力隊として受け入れ、体験交流をさらに充実

2020年～

地元大学や他団体との資源開発交流

- 敬和学園大学との交流を通して集落の資源開発を推進
- 花嫁プロジェクトの食用菊「花嫁」の栽培と活用

今後の展望

体験と共有をテーマに持続可能な集落に

- 持続可能な農村をテーマとした資源活用と獣害に強いむらづくりの推進
- 都市農村交流や移住を促進するための新たな土地活用と交流拠点を整備



(青空レストラン)



(GISを使って農地の共同管理)



(環境診断)

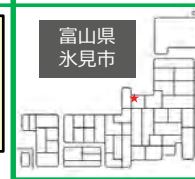


(伐採等作業)



(上三光集落の住民)

○ 魚問屋が耕作放棄地を再生し農園レストランとワイナリーを開設するなど、地域活性化に取り組む。



キーワード

内発的

観光

6次産業化

ワイン

基本情報

- 所在地：富山県氷見市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：SAYS FARM
- 選定表彰：日本ワインコンクール金賞（H29）
- 主力商品・イベント：ワイン
- 活用している地域資源：農産物

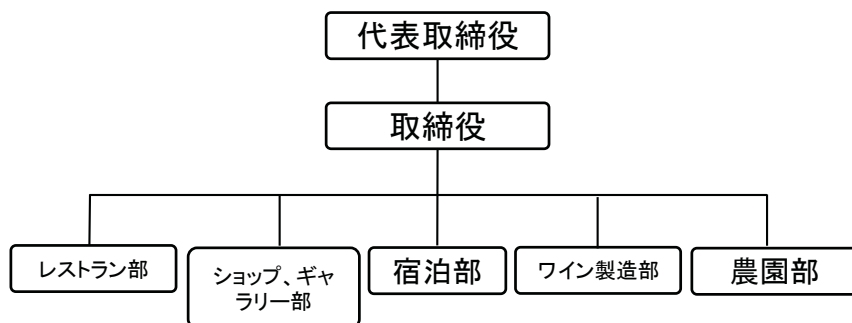
取組の概要

- 江戸時代から続く魚問屋「釣屋」が氷見の魚に合うワインを作りたいとスタート。（SAYS FARM設立（H19））
- 耕作放棄地を再生した約9haの農地にブドウ、桃、リンゴ、野菜、ハーブ等を栽培。ほかにヤギ・ニワトリを飼育。ぶどう畑での農作業体験を実施。
- 100%自社原料のブドウでワインを製造・販売。レストラン、ギャラリー、ゲストハウスを併設。
- レストランでは、農園で育てた野菜、果物と氷見の魚介を
- 中心とした料理を提供する地産地消に取り組む。氷見特産の
- 寒ブリによく合うロゼワインも生産。



販売しているワイン

体制図



取組の成果

- 日本で最も権威のある品評会日本ワインコンクールの欧州種系白ワイン部門で金賞受賞（H29）



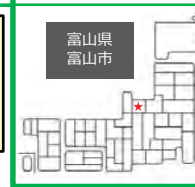
ぶどう畑と収穫されたぶどう

所在地▶ 富山県氷見市余川字北山23

連絡先▶ TEL:0766-72-8288 E-mail:info@saysfarm.com

ウェブサイト▶ <https://www.saysfarm.com/>

○ 最終処分場の跡地の有効活用、廃棄物由来の再生エネルギーの有効活用によるトマト等の周年栽培、循環型農業の実践。



キーワード

内発的

異分野連携

エネルギー

基本情報

- 所在地：富山県富山市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：株式会社 富山環境整備
- 選定表彰：第15回農家・オブザイヤー 最高金賞（平成30年度）
- 主力商品・イベント：トマト、トルコキキョウ
- 活用している地域資源：廃棄物由来エネルギー
- 主な国等の支援策：次世代施設園芸導入 加速化支援事業（H26）

取組の概要

- 廃棄物から生み出されたエネルギーを有効活用し、トマトと花卉を中心とした周年栽培に取組むなど、循環型農業を実践。
- 高品質な農産物の安定供給と県内産業の振興・雇用創出に取組む。



トマト フルティカ栽培の様子

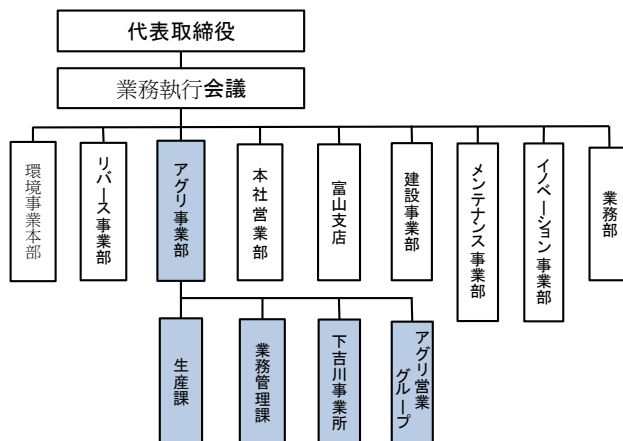


商品フォレストフルティカ



トルコギキョウ調整の様子

体制図



取組の成果

- 廃棄物から生み出されたエネルギー（電気、熱）をハウスへ供給し、冷暖房設備やLED照明に利用することでエネルギー使用経費削減。
- フルーツトマト、トルコキキョウ等の農作物栽培を開始、雇用者を80名増加(新規雇用)。
- 施設園芸拠点の整備に合わせ、施設見学者が、毎年1,000人。



ハウスでの見学者案内

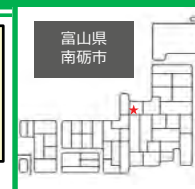
所在地 ▶ 富山県富山市婦中町吉谷3-3

連絡先 ▶ TEL:076-469-5356 FAX : 076-469-5635

E-mail: yositani@tko-co.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.tko-co.jp/>

○ SCOT（旧早稲田小劇場）が、利賀村を演劇拠点として活動を開始。以来、利賀村は、世界的演劇の聖地として有名になり、交流人口の拡大等、演劇が地域振興に貢献。



キーワード

外部との連携

農村

観光

芸術・文化

半農半X

基本情報

- 所在地：富山県南砺市（旧利賀村）
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：劇団SCOT
富山県利賀芸術公園、南砺市、
南砺市商工会利賀村支部 他
- 主力商品・イベント：
演劇、芸術公園等
- 活用している地域資源：
利賀の自然、山村集落、農産物等

取組の概要

- 昭和51（1976）年、鈴木忠志氏が率いるSCOT（旧早稲田小劇場）が、利賀村を演劇活動の本拠地として活動開始。
- 世界演劇祭（利賀フェスティバル等）を昭和57（1982）年から開催し、令和元（2019）年には、日本とロシアとの共同開催となった「第9回シアター・オリンピック」の日本側の主会場となり、16の国・地域の舞台芸術を上演。
- 2020年より、コロナ禍を踏まえ、自給的農業の取組を開始。劇団の「農業班」が中心的に担当し、住民の指導も受けつつ、ピーマン、セロリ、ナス、白菜、ブロッコリー等を栽培して収穫。地方を拠点とする劇団の新モデルとして新たな生活様式を発信。



野外劇場



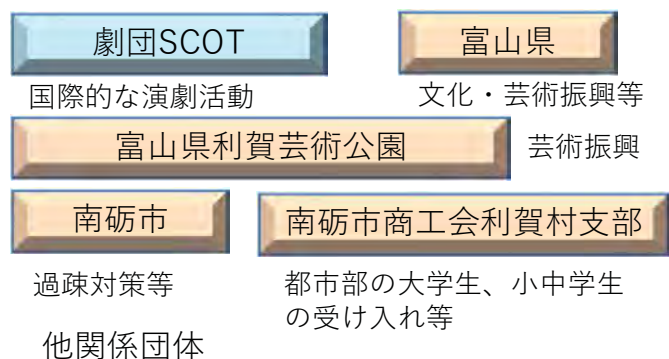
利賀山房



上演風景

体制図

劇団の演劇活動と過疎対策事業が一体となった取組



取組の成果

- 演劇の取組が波及的に地域活性化に大きく貢献
 - ・ 交流人口の拡大 利賀芸術公園入園者数（年間）約3万人
旧利賀村一帯の観光客数（年間）約17万人
 - ・ 商工会と大学ゼミの共同プロジェクトによる学生等の来訪、民泊17軒増、移住者22人。※1
 - ・ 世界ブランドTOGAとしての発信が県民の誇りの醸成等にも寄与。

※1：2017年度 第15回オーライ！ニッポン大賞：南砺市商工会利賀村支部&慶応大牛島ゼミ利賀プロジェクト

所在地▶富山県南砺市利賀村上百瀬70-2

連絡先▶TEL:0763-68-2356 E-mail:

ウェブサイト▶<https://www.scot-suzukicompany.com/>

- 耕作放棄地を積極的に再生して、環境にやさしい有機農業を通じて地域の雇用創出、食料自給率向上、食料安全保障への貢献を目指す。



キーワード

内発的

6次産業化

有機農業

基本情報

- 所在地：石川県金沢市及び鳳珠郡能登町
- 地域指定：平地農業地域及び中山間地域
- 団体名：(株)金沢大地・アジア農業(株)・金沢農業・(株)金沢ワイナリー
- 選定表彰：全国優良経営体表彰 個人経営体部門 農林水産大臣賞（平成25年度）、フード・アクション・ニッポン アワード プロダクト部門 優秀賞（H21年度）、「ディスカバー農山漁村の宝」第1回全国選定
- 主力商品：有機六条大麦茶、わたしのぬか床、有機しょうゆ、有機きな粉、有機純米酢
- 活用している地域資源：有機農作物、加工商品(みそ、ワイン等)
- 主な国等の支援策：耕作放棄地再生利用緊急対策交付金、食料産業・6次産業化交付金

取組の概要

- 河北潟干拓地及び奥能登地区で米、麦、大豆、蕎麦、野菜等を有機栽培し、日本最大規模の有機農業経営体。
- 6次化を推進し、伝統製法にこだわった調味料、納豆、スイーツ等、約80品目の加工商品を自社Webサイト及び全国の販売チャネルで継続販売。金澤町家を改修したワイナリーやフレンチ農家レストランを開設。



有機大豆圃場



耕作放棄地再生後、有機蕎麦の収穫

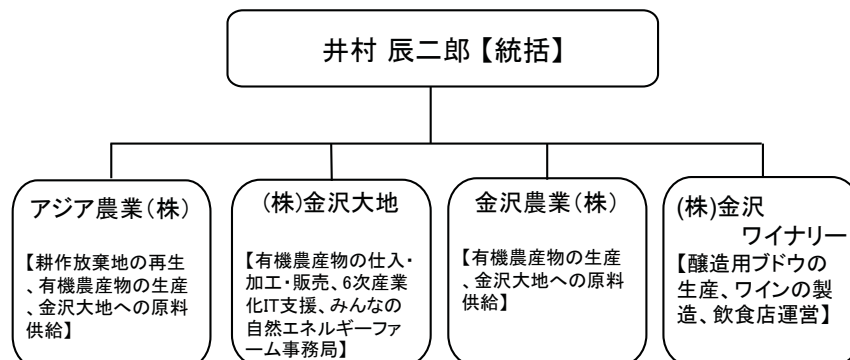


金澤町家を改修したワイン醸造所



フレンチ農家レストラン

体制図



取組の成果

- 経営面積は、就農時点45ha（H9）から、300ha（H30）に増加。
- ネットショップの売上げが8百万円（H20）から29百万円（H30）へ増加。
- 金澤町家を改修し、石川県産ブドウ100%のワインを醸造する都市型ワイナリーや自社及び地域農産物を提供する地産地消型フレンチ農家レストランを開設。



能登産原材料を活用した商品例

所在地▶石川県金沢市八田町東9番地

連絡先▶TEL:076-257-8818 FAX: 076-257-8817

E-mail:home@k-daichi.com

ウェブサイト▶https://www.k-daichi.com/

○ 遊休地を再生して行うブドウ栽培と、能登の新しい特産品となるワイン製造・販売。



キーワード

内発的

6次産業化

企業連携

ワイン

基本情報

- 所在地：石川県鳳珠郡穴水町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：能登ワイン株式会社
- 選定表彰：日本ワインコンクール 金賞（H25年度）
日本で飲む最高のワインコンクール
プラチナ賞（H26年度）
「ディスカバー農山漁村の宝」第6回全国選定
- 主力商品・イベント：能登ワイン
- 活用している地域資源：ブドウ畑・ワイナリー

取組の概要

- 平成12年、農業法人を含む4件の農家が遊休地において、新たにワイン専用ブドウ約20種類18haの栽培を開始。
- 平成16年、能登ワイン株式会社を設立。18年に約5万本のワインの製造・販売を開始。
- 地元小中学校の「社会学習」の一環として、ブドウ畑で収穫体験やワイナリーでワインの製造見学を実施。



ワイナリー周辺の自社畑

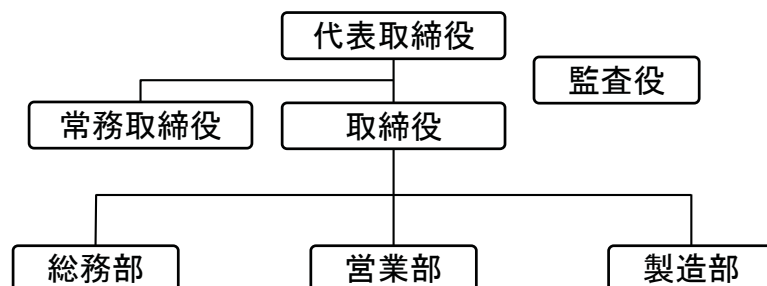


収穫体験会における参加者の収穫の様子



能登ワイン—商品ラインナップ

体制図



取組の成果

- ワインの売上は1.3億円から1.9億円に増加（H26～H30）。
- 日本で最も権威のある品評会「日本ワインコンクール」で金賞受賞の他11年連続で入賞。
- 地元の観光業者と連携し「能登周遊ツアー」の誘致により、年間来場者数は2.7万人から約5万人に増加（H26～H30）。



社会学習のブドウ収穫体験

所在地▶石川県鳳珠郡穴水町字旭ヶ丘5番1

連絡先▶TEL:0768-58-1577 E-mail:info@notowine.co.jp

ウェブサイト▶https://notowine.com/

○ 農業（ナシ・ブドウ栽培と農産物等の販売）に特化した就労継続B型事業とした農福連携の取組。



キーワード

内発的

農福

6次産業化

梨ジュース

基本情報

- 所在地：福井県あわら市
- 地域指定：平地農業地域
- 団体名：NPO法人ピアファーム
あわら市認定農業者(H23.9.25)
ASIAGAP認証 (R2.2.23)
- 選定表彰：第6回耕作放棄地発生防止・解消表彰
事業・全国農業新聞賞(H26.5.27)
第16回ヤマト福祉財団小倉昌男賞
「デイカバ」農山漁村の宝」第4回全国選定
- 主力商品・イベント：梨、ナシジュースぶどう、
ブドウジュース
- 活用している地域資源：果樹園

取組の概要

- 高齢化で担い手不足のナシ農園を引き受けて耕作放棄地を再生。ブドウ及び野菜の栽培を開始。現在の耕作面積は7,1haで次年度以降も増えていく予定。
- ASIAGAP認証を取得して、安全な農産物生産、環境に配慮した農業、生産者の安全確保と事故防止を実施。
- 梨ジュースを製造販売（H28）するほか、ゼリーやジャムなどの加工も実施。
- 観光農業公園として「癒しの果樹園あわらベルジェ観光ブドウ園」を開設、4,600人の来苑者や修学旅行の生徒も受入れ。
- 市内外の農業者180戸が出荷する地産地消を推進する農産物直売所3か所の設置、地域に愛されるスーパー(お店)を展開。



ナシの栽培、収穫作業をするメンバー

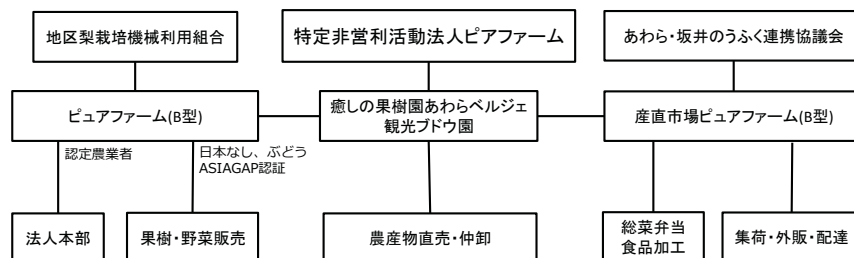


観光ブドウ園で子どもたちの収穫体験



耕作放棄地の開墾作業

体制図



取組の成果

- 生食ブドウについては、22品種を栽培。年間90日以上の出荷。
- 梨とぶどうのジュースは、H28年以降、毎年約1,000本～1,500本を販売、ふるさと納税の返礼品として好評。
- 平均事業収入は、栽培と販売を合わせて年間1億3千万円程度。



6次化、ナシジュース



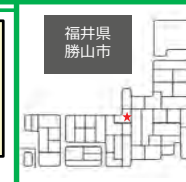
直売所店内で働くメンバー

所在地▶福井県あわら市二面45-19-1

連絡先▶TEL:0776-77-2930 FAX : 0776-77-2931 E-mail:info@peerfarm.jp

ウェブサイト▶http://peerfarm.jp/

○小原集落を拠点とし、都市住民との交流による地域活性化、自然資源の保全・保護等の取組。



キーワード

外部との連携

農泊

環境保全

棚田

古民家

基本情報

- 所在地：福井県勝山市
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：小原ECOプロジェクト
- 選定表彰：オーライ！ニッポン大賞（H24年度）

ふるさとづくり大賞（H27年度）

地域再生大賞

「ディスカバー農山漁村の宝」第7回全国選定

- 主力商品・イベント：エコツアー
- 活用している地域資源：農村景観

取組の概要

- 小原集落を拠点とし、都市住民との交流による地域活性化、自然資源の保全・保護等を目的に活動。
- 明治時代以降に建築された県内唯一の建築様式を取り入れた古民家を福井工業大学の学生と協力して修復。



福井工大生による伝統的古民家の修復再生活動



国際ワークボランティアの棚田保全・農作業支援



希少種ミチノクフクジュソウ保全活動

体制図



取組の成果

- 過去5年間、毎年1,300人以上（令和元年度：1,350人）が地域に来訪しており、エコツアーには毎年300人以上（令和元年度：320人）が参加。
- 地域に生息する絶滅危惧種のミチノクフクジュソウの保全活動に、NPO関係者や小学生など毎年130人以上が参加。

所在地▶福井県勝山市北谷町小原 3 3 - 8

連絡先▶ TEL:080-6359-5127 FAX: 0779-88-1517

E-mail:ohara-eco@nifty.com

ウェブサイト▶<https://www.ohara-eco.com/>

- 平成18年、山梨県全域の歴史的景観・建物の消失回避を目的にNPO法人を設立、調査を実施。活動を通して「上条集落」に出会い、保全活動を開始。現在、古民家の利活用による農泊施設を運営。



キーワード

内発的

地域住民

農泊

都市農村交流

郷土食

インバウンド

基本情報

- 所在地：山梨県甲州市塩山
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：特定非営利活動法人
山梨家並保存会
- 選定表彰：美しい県土づくり大賞（H25年）
- 主力商品・イベント：農泊、郷土食づくり体験
- 活用している地域資源：郷土食、古民家、自然景観
- 主な国等の支援策：農山漁村振興交付金（農泊推進対策）



取組の概要

- 平成27年、上条集落は文化庁の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、見学客が増加。平成21年より整備してきた古民家2棟を活用し、宿泊者の受入れを平成29年より開始。インバウンド旅行者も増加し、外部との交流促進。
- 収穫体験等のイベントに加え、地域食材を活用した郷土食「ほうとう」づくりメニューを開発。伝統食文化や地産地消の啓発。
- 地域企業と連携したモニターツアーなどにより、地域経済の循環。



インバウンド宿泊体験

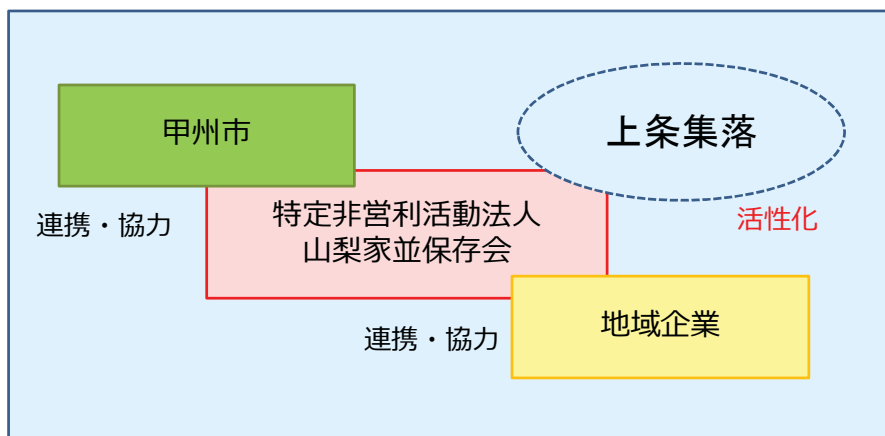


ほうとうづくり体験



姉妹都市訪問団と集落住民の交流

体制図



取組の成果

- 農泊施設(宿泊)売上：約140万円（H30）
- 農泊施設宿泊者数：226人（H30）
- 食体験プログラム利用者数：170人（H30）
- 農泊施設見学者数：897人（H30）



所在地▶山梨県甲州市塩山上於曾（本部）、甲州市塩山下小田原（農泊施設）

連絡先▶TEL:0553-32-4748 FAX:0553-32-2171

E-mail:ienamihozonnkai@gmail.com

ウェブサイト▶<https://koushu-minka.jp/npo/>

- 平成16年、協議会を設立し棚田保全や耕作放棄地再生を開始。その後企業とのCSR協定に基づく活動を開始し、都市住民との交流が促進。平成30年には市営複合施設の管理者に指定され、売上と雇用創出に貢献。



キーワード

外部との連携

企業

学生

都市農村交流

教育

CSR

基本情報

- 所在地：山梨県甲府市上帯那町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：帯那地域活性化推進協議会
- 選定表彰：
「豊かなむらづくり表彰事業」関東農政局長賞（H24年度）
- 主力商品・イベント：棚田米、各種農業体験イベント
- 活用している地域資源：農地（棚田）、農林水産物
- 主な国等の支援策：
「多面的機能支払交付金」
「農地環境整備事業 帯那棚田の里地区」

取組の概要

- 平成23年、大手コンビニエンスストア本社との「企業の農園造りに関する包括協定」により、耕作放棄地の再生、棚田保全等の取組が加速化、都市住民との交流促進。
- 甲府市より、複合宿泊施設「創作の森おびな」の管理者に指定、子どもプロジェクトや都市住民、大学等との宿泊滞在型企画を拡充。施設利用料（売上）の向上や雇用の創設に貢献。
- 耕作放棄地再生農地で収穫祭等のイベントを開催し、幼稚園や小学校、都市住民等との農業体験・食農教育を実施。また、拓殖大学との交流事業により、海外からの留学生に棚田での田植え等を体験してもらい、日本の農業、農村の文化を世界に発信。



菜の花摘取り体験



じゃがいも収穫体験

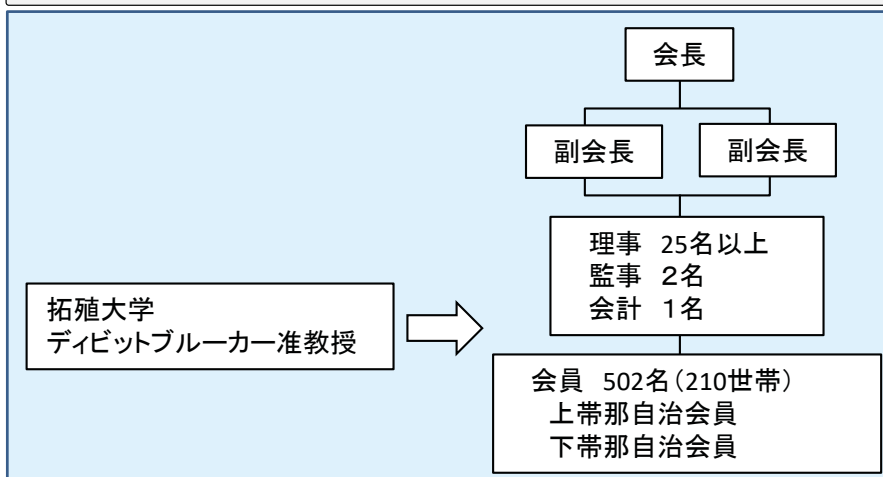


コンビニ本社職員の活動



拓殖大留学生との交流

体制図



取組の成果

- 各種イベント交流人口：710人（H26）→870人（H30（留学生含））
- CSR協定による参加数：200人（H30）
- 創作の森おびな利用料金（売上）：140万円（H30）
- 創作の森おびな交流人口：1,117人（H30）

所在地▶山梨県甲府市上帯那町

連絡先▶E-mail:info@obina.jp

ウェブサイト▶http://obina.jp/

○ 森林セラピーを核にした「癒しの森事業」の展開と協定締結による企業誘致・受入。 【森林サービス産業】



キーワード

内発的

町民有志

森林セラピー

基本情報

- 所在地：長野県信濃町
- 地域指定：中山間地域
- 団体名：信濃町、
しなの町Woods-Life Community
- 主力商品・イベント：
森林セラピー
森林メディカルトレーナー認定制度
癒しの森の宿（認定）
- 活用している地域資源：
森林



取組の概要

- 長野県信濃町では、合併しないまちづくりを選択する中で、地域グループが主体となって「癒しの森」事業を提案。町独自で「森林メディカルトレーナー」と「癒しの森の宿」の育成・認定等を行い、地域の民間のガイドと宿泊施設を主体化。
- 事業化段階の初動期には地域住民向けの健康講座を通して体験プログラムの上質化・ガイドのスキルアップを図り、その後、企業との協定締結を促進し、社員研修・福利厚生等で年間4,000泊を超える需要を創出（現在では35の企業等と協定を締結）。

森ヨガ



アロマ



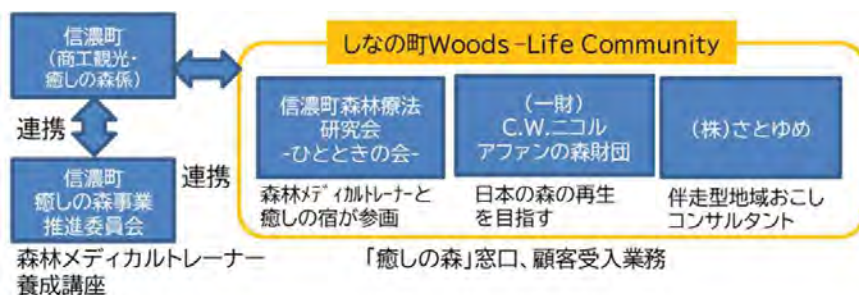
マクロビ弁当



森の中の癒しの空間



体制図



取組の成果

- 森林メディカルトレーナー：講座受講・認定数180人、登録数：16名
- 癒しの森の宿認定数：延べ30軒（2019年度現在14軒）
- 提携企業数：35社
- 宿泊者数：4,000人／年、森林セラピー利用者：6,000人／年
- 地域への経済波及効果：
直接効果約2億1,890万円/5年間・総合効果3億972万円/5年間

所在地 ▶ 長野県上水内郡信濃町大字大井2742-2041

連絡先 ▶ TEL:0465-22-2934

FAX :

E-mail: odawara@t-forestry.co.jp

ウェブサイト ▶ <https://fa-odawara.foret-aventure.jp/>

○昭和48年、有限会社を設立。平成27年、飛騨えごま本舗を開設。「飛騨えごま」の栽培農家の増加と栽培面積の拡大を行いブランド化を図るため、えごま搾油所の開設と自社栽培を行うとともに、障がい者や高齢者の雇用にも貢献。



キーワード

内発的

障がい者

6次産業化

農福

都市農村交流

都市農村交流

えごま

基本情報

- 所在地：岐阜県高山市
- 地域指定：都市農業地域
- 団体名：有限会社萬里 飛騨えごま本舗
- 選定表彰：
 - H29「メイド・バイ飛騨高山」認定
 - H29、H30、R1、R2「食の3重丸」認定
 - R1「東海農政局ディスカバー農山漁村の宝」選定
- 主力商品・イベント：飛騨生搾りえごま油、飛騨えごま実・えごま栽培体験
- 活用している地域資源：農林水産物（えごま）

取組の概要

- 飛騨の伝統食である「飛騨えごま」を全国ブランドとして展開し、完全受注生産により新鮮な搾りたてえごま油を提供。
- 飛騨全域の飛騨えごま栽培農家・面積の増加を目指す「飛騨えごまバレー構想」で地域活性化に取り組む。
- 福祉施設と連携し、障がい者の収入増と高齢者の活躍など地域活性化に寄与。



方言で「あぶらえ」と呼び、親しまれる飛騨えごま

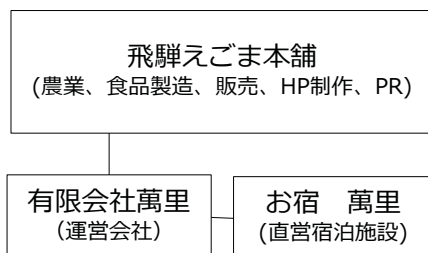


飛騨高山で唯一、HACCP導入認定の搾油所



障害者との連携

体制図



飛騨生搾りえごま油と飛騨えごま実

取組の成果

- 飛騨えごま商品の売上は、約170万円から約2,400万円に増加（H27～R1）。
- 取引するえごま栽培農家は、4軒から90軒に増加（H27～R1）、飛騨えごまの取扱量も190kgから2,400kgに増加（H27～R1）。



所在地 ▶ 岐阜県高山市石浦町7-586

連絡先 ▶ TEL:0577-57-7801 FAX : 0577-57-7802

E-mail:info@hidaegoma.jp

ウェブサイト ▶ <https://hidaegoma.jp/>

- 平成23年に株式会社D A I が設立した就労継続支援 A 型事業所。平成28年からサトイモ農業者の組合に加入し、岐阜県特産の「円空里芋」を生産。また、組合員から手間のかかる調整作業を受託し、安定的な工賃を確保。



キーワード

外部との連携

障がい者

農福

円空里芋

基本情報

- 所在地：岐阜県関市
- 地域指定：都市農業地域
- 団体名：株式会社D A I
- 主力商品・イベント：円空里芋、黒にんにく、美濃蜜芋（干し芋、焼き芋）・感謝祭、農業祭、各種イベントやお祭りに出店
- 活用している地域資源：農林水産物（サトイモ、ニンニク、サツマイモ、タマネギなど）

取組の概要

- 約1haの農地において、ニンニク、サツマイモ、タマネギなどを生産。にんにくは黒にんにく、さつまいもは干し芋や焼き芋に加工。
- サトイモ農業者の組合員から岐阜県特産品「円空里芋」の収穫作業、毛羽取り、選別作業を請負。
- 関市内の農業者から借りた圃場30aで、自社でもサトイモの栽培を実施。



円空里芋の収穫作業



調整作業（規格選別）



委託農家との撮影

体制図

株式会社D A I
(生産管理、農業部、委託請負部)

就労継続支援 A 型事業所
「それいゆ」

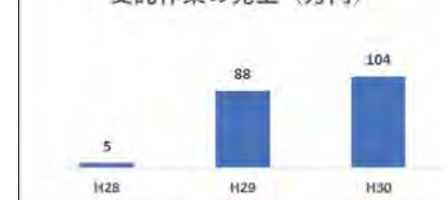


美濃蜜芋（干し芋）

取組の成果

- 丁寧な作業が信頼を得て、受託作業の売上は、5万円から104万円に増加（H28～H30）。
- 障害者の平均賃金は約88,000/月（H30）と、岐阜県内A型事業所の平均を上回る。

受託作業の売上（万円）



所在地▶岐阜県関市平和通3丁目12番地

連絡先▶TEL:0575-23-1101 FAX:0575-23-1166

E-mail:dai-farm.non@biscuit.ocn.ne.jp

ウェブサイト▶<https://www.dai2011.com/>